研究紀要・年報

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第2号

石清水型削器小考
桑波田　武志

南九州貝殻文系土器に見られる地域性について
黒川　忠広

田村式土器とその周辺（覚書）
横手　浩二郎

上野原遺跡第10地点における石材選択について
八木澤　一郎

「成川式土器」の器種組成について（予察）
－杯形土器の様相を中心に－
相美　伊久雄

古代官衙の立地
－古代の官衙は，鹿児島ではどのようなところに置かれたか－
繁昌　正幸

鹿児島県における荘園遺跡研究の現状
中村　和美

鹿児島県における古代の鍛冶遺構について
川口　雅之

墨書土器の性格
－鹿児島を例として－
坂本　佳代子・岩澤　和徳・松田　朝由

鹿児島県における中世煮炊具の一様相
上床　真

島津本家における近世大名墓の形成と特質
松田　朝由

溝状遺構の一性格
東　和幸

《実践報告》　出土木製品保存処理の現状と課題
永濵　功治

平成14年度　埋文センター年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2004. 3

『縄文の森から』第２号　　目　次

石清水型削器小考　桑波田武志 …… 1

南九州貝殻文系土器に見られる地域性について　黒川　忠広 …… 11

田村式土器とその周辺（覚書）　横手浩二郎 …… 19

上野原遺跡第10地点における石材選択について　八木澤一郎 …… 23

「成川式土器」の器種組成について（予察）　相美伊久雄 …… 29

古代官衙の立地　繁昌　正幸 …… 37

鹿児島県における荘園遺跡研究の現状　中村　和美 …… 55

鹿児島県における古代の鍛冶遺構について　川口　雅之 …… 63

墨書土器の性格　坂本佳代子・岩澤和徳・松田朝由 …… 71

鹿児島県における中世煮炊具の一様相　上床　　真 …… 81

島津本家における近世大名墓の形成と特質　松田　朝由 …… 91

溝状遺構の一性格　東　　和幸 ……109

《実践報告》出土木製品保存処理の現状と課題　永濱　功治 ……117

平成14年度　年報 ……121

研究紀要

墨書土器の性格

－鹿児島を例として－

坂本佳代子・岩澤和徳・松田朝由

Ink-inscribed Potteries in Kagoshima

Sakamoto Kayoko, Iwazawa Kazunori, Matsuda Tomoyoshi

要旨

鹿児島県内の墨書(刻書)土器を集成したところ，文字の傾向として1遺跡内で同じ文字が複数みられる場合と，遺跡間で共通する場合のあることが分かった。前者は意味を推測することの困難な文字が多いのに対し，後者は推測可能なものが比較的多く，公的施設名や吉祥句を示す。前者は県外の事例において村落祭祀が指摘されており，県内においても蔵骨器にともなう墨書土器にみられることなどから祭祀的な性格として評価した。一方，後者は吉祥句の墨書土器を祭祀的，公的施設の墨書土器を食器管理的な性格と評価した。併せて，特殊な遺構・遺物の検出・出土状況から食器管理的な墨書土器の出土している遺跡が公的な性格をもつ遺跡であることを想定した。

キーワード　古代，墨書土器，祭祀的性格，食器管理的性格

1　はじめに

古代の遺跡から出土する文字資料は，古代の様相を復元するにあたり非常に有効な資料である。中でも木簡・漆紙文書などは記載されている文字数も多く，それが文章として成り立っている場合には，当時の社会を詳しく知る手がかりになる。一方，墨書土器・刻書土器などの文字や記号を記した文字資料というものも存在するが，こちらは大半が単語もしくは単純に文字，記号が記される場合が多く，文章として成立している場合は稀である。

近年まで，鹿児島県内において木簡・漆紙文書の発見例はなく，鹿児島県における古代の人々の生活を文字資料から復元することは困難であったが，平成13年，川内市京田遺跡において鹿児島県初となる木簡が出土した。木簡には嘉祥3(西暦 850)年の日付とともに大領薩摩公が水田を召し取る旨が記載され，薩摩国における律令制度のあり方を知る大きな手がかりとなった。また，最近では発掘件数の増加に伴い，墨書土器・刻書土器の出土が相次いでいる。墨書土器・刻書土器に記される文字は1文字から2文字が圧倒的であり，文字のみから得られる情報は多くない。しかし，古代の遺跡で墨書土器が出土するという状況が多く見られる今日，土器に文字を書くという行為が当時の社会において重要な意味を持ち，墨書土器から古代社会の一側面を復元することも可能であることを物語っている。

本稿では特に墨書土器・刻書土器について取り上げ，土器に文字を記す目的について考察する。なお，本稿では刻書土器を含めた意味で墨書土器と記載することを断わっておく。

2　鹿児島における墨書土器研究史

関東地方の古代の遺跡では1遺跡内から千点を超える数の墨書土器が出土する例があり，墨書土器の意味について遺跡単位で捉える作業がなされている地域もある。しかし，南九州での墨書土器の出土は1遺跡内から数点である場合が多く，墨書土器の研究は困難な状況に置かれてきた。こうした中で近年の発掘件数の増加に伴い南九州においてもまとまった量の墨書土器がみられるようになっている。

新東晃一は人形・馬形土製品を用いた祭祀形態について述べた（新東 1978)。この中で，伊佐郡菱刈町の大迫遺跡で出土した人形土製品と蔵骨器について触れている出土した5点の蔵骨器の蓋のうち，3点に「盈」が記されており，「皿に物を多く容れみつる義」と文字の意味を推測している。そしてこれらの文字は，いずれも字体が異なることから複数人による書記であることを指摘した。人形土製品は火葬墓の副葬品であるとの見解を示した。

池畑耕一は鹿児島県下の墨書土器・刻書土器の出土遺跡についての紹介を行い，それらの出土から考えられる遺跡の性格について考察を加えた（池畑 1983)。上加世田遺跡出土墨書土器の「久米」，小瀬戸遺跡出土刻書土器の「大伴」「伴家」などの文字は軍団関係の職業・施設

を示す可能性を挙げている。「久米」は各地の国造・辺境の蛮民など，地方集団を服従させた際にそれぞれをグループごとに編成し，治安維持にあたらせた「久米部」との関わりを示唆し，「大伴」についても，古くから皇室の軍事に仕えてきた大伴氏との関係が考えられると述べた。また，山崎B遺跡出土墨書土器の「九」，山神遺跡出土墨書土器の「吉」などの文字は祭祀に関係するとし，これらの文字を記載した墨書土器が出土する遺跡は祭祀に携わっていたと指摘した。その他，文字資料の出土する遺跡には寺院・官衙・役所・駅など，公的施設の可能性を与えた。

さらに池畑は８世紀の終わり，薩摩・大隅の国に国分寺が建てられ，役所などの設備が整うことによって，南九州においても文字が広がっていくとの見解を示した（池畑 1990）。文字資料の出土する地域に指宿・金峰・川内・姶良の海岸部などを挙げ，これらの地域が古代の政治的中心地であり，文字は政治的なものを媒介して広まったと指摘した。また，１遺跡の中で同じ文字を記した資料が複数出土する状況を挙げ，このような文字が地名，建物名，人名，役職名を示している可能性があると述べた。

永山修一は鹿児島県内で出土した「厨」の墨書土器についての考察を行った（永山 2000）。「厨」は饗饌に伴う施設を意味するとし，「厨」の墨書土器が出土した一ノ宮遺跡など５遺跡の墨書土器以外の遺物や，古代の国府と郡衙を結ぶ官道の存在を考慮し，「厨」銘墨書土器出土遺跡は官衙であった可能性や，官道沿いの地であったとの見解を示し，国司巡行の際などにその地で饗饌が行なわれていたとの見解を示した。

宮下貴浩は金峰町白樫野古代火葬墓で出土した「山」と記された４点の墨書土器は埋葬の目的で準備されたものとし，同一の文字が複数の土器に記されている場合，集団の標識的文字である可能性を指摘した（宮下 2000）。

佐藤浩司は九州における墨書土器の様相をまとめた中で薩摩についてふれた（佐藤 2003）。墨書土器の盛行期が北部九州よりおくれ，９～10 世紀であるとし，その普及の背景に律令制度の広がりと仏教文化の広がりを指摘した。また，隼人世界の独特の世界観が文字の使われ方にも影響している可能性を示唆した。

永山修一は鹿児島市横井竹ノ山遺跡で出土した墨書土器についての考察を，隼人文化研究会にて発表した（永山 2004）。当遺跡は鹿児島市と松元町，伊集院町の境に位置し，中世，近世では郡境となるばかりでなく，参勤交代路にも位置し，交通の要所であった。「子」「肥道里」「☆」の墨書，「八万」の刻書が出土し，土師器の口を合わせ埋納された状態で出土しているので陰陽道に接点のある祭祀に関わるものと述べた。また，祭祀は除災招福あるいは道，境に関わるものと指摘した。

先学の考察から注目される指摘として，第１に１遺跡内で複数の土器に同じ文字を記している事例が多くみられること。第２に墨書土器と公的施設に関わりがみられることをあげることができる。前者は近年の研究成果によって集落内の集団の標識的文字と解釈し，村落祭祀として位置付けた高島英之の考察がある（高島 2000）。一方後者は土器群の所属を表記した食器管理目的が指摘されている（山中 2003）。

本稿では土器への墨（刻）書行為の目的としてこの両説に留意しながら論をすすめていく。そこで最初に１遺跡内で多く認められる文字と遺跡間で共通する文字を抽出し，それぞれの文字の内容と意味，性格について検討する。なお，今回取り扱う黒色土器は８世紀から 11 世紀のものとし，墨書陶磁器は考察の対象から除外した。

３　１遺跡内で多い文字と遺跡間にわたる文字の検討

（１）１遺跡内で多い文字

①「作」…西ノ平遺跡（川内市）（第１図）

墨書土器が 100 点以上出土しており，37 点に「作」の文字が記されている。7 画目の横画が５画目の縦画をのせる形で書くのが特徴である。

②「井」・「井多」…山野原遺跡（金峰町）（第２図）

墨書土器は「井」「多」「井多」の文字が合わせて 10 点出土している。「井」「多」単独の墨書土器もすべて字の側面が破損しており，元々は「井多」であった可能性が高く，字体も共通している。「良」「三ト」は吉祥句や占いに関わる文字であり，「良」や「井」の墨書土器の一部が掘立柱建物跡のピット内から出土し，地鎮的要素があることから，「井多」も祭祀的な性格が推測される。なお，「井多」字は横位に書かれている点にも特徴がある。

③「山」…白樫野遺跡（金峰町）（第 17 図）

蔵骨器の四隅に土師器坏が４点みられ，内３点に「山」の墨書がある。火葬墓に関わる墨書土器であろうか。なお，「山」は溝辺町山神遺跡からも出土している。

④「川」「阿多」…小中原遺跡（金峰町）（第３図）

「川」字が６点，「阿多」が可能性も含めて２点みられる。刻書土器が圧倒的に多い点が特徴的である。

⑤「春」…市ノ原遺跡第１地点（市来町）

「春」は４点出土している。

⑥「仲家」「原」「雄」…小瀬戸遺跡（姶良町）（第４図）

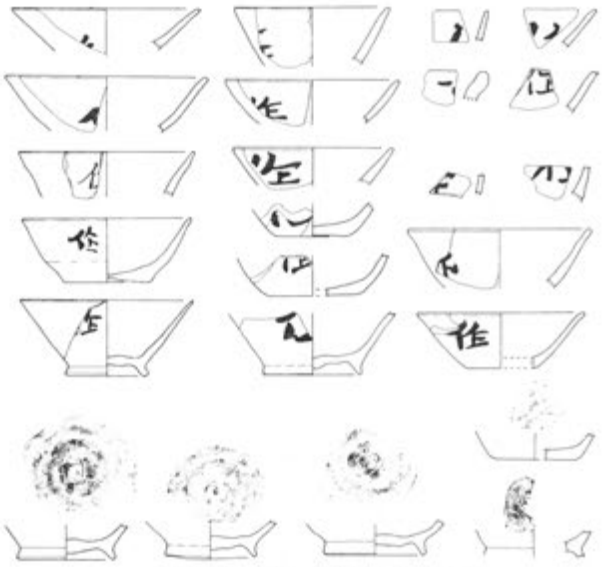
「仲家」が３点，「原」が３点，「雄」が５点出土している。字体はそれぞれ異なり，複数の人物による墨書が推測される。「仲家」は人・家に関わる可能性がある。「原」は伊集院町西原遺跡でも出土している。

⑦「真」…橋牟礼川遺跡（指宿市）

「真」は３点出土している。

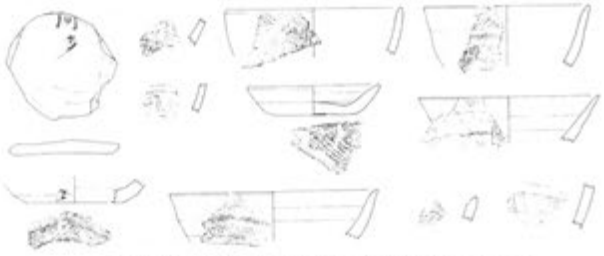
⑧「盈」…大迫遺跡（菱刈町）（第 19 図）

蔵骨器にともなって７個体の土師器坏が出土し，うち



第１図　「作」（鹿県教委 1983a）

第２図　「井多」（金峰町教委 1995）

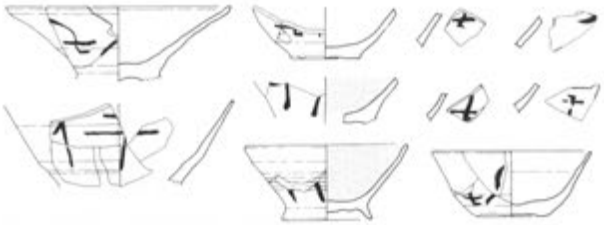


第３図　「阿多」「川」（鹿県教委 1991a）

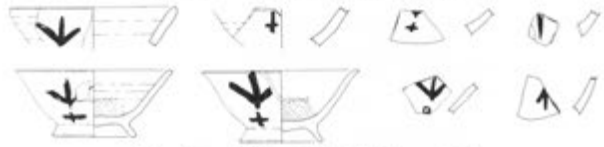
第４図　「仲家」「原」「雄」（鹿県教委 1982b）

（1～3：鹿県埋文セ2004a　4～6：福山町教委 1994）

第５図　「岑」「奈」



第６図　「仟」（鹿県埋文セ 2004a）



第７図　「箇」（鹿県埋文セ 1993b）

第８図　「元」（鹿屋市教委 1987）

３点に「盈」の墨書がある。火葬墓に関わる墨書土器であろうか（新東 1978）。

⑨「九」…山崎Ｂ遺跡（栗野町）

刻書土器９点，墨書土器１点が出土している。「九」は他に市来町市ノ原遺跡第１地点で２点みられる。

⑩「仟」…踊場遺跡（財部町）（第６図）

柱配置や立地状況から宗教的な性格が想定される掘立柱建物跡がみられ，高坏状の坏や肩部の穿孔と体部に赤色顔料のある小型壺，椀形の銅製品などが出土している。墨書土器はおおよそ 10 点に「仟」が想定される。この「仟」は隷書体を変形したような字風で宗教的，祭祀的な色彩を感じさせる。

⑪「岑」…高篠遺跡（財部町）（第５図）

105 点の墨書土器が出土している。その中の３点に「岑」がみられ，２点は筆跡から同一人物によって書かれた可能性がある。

⑫「余」…中尾立遺跡（福山町）（第５図）

３点に「余」の墨書が認められる。３点ともに逆位で書かれている点が共通している。

⑬「箇」…榎崎Ｂ遺跡（鹿屋市）（第７図）

「↑」は「箇」の略字であると考えられる。可能性のあるものも含めて８点出土している。「箇」の上には「七」や「十」，「○」が認められる。文字の組合せからは「万」との関わりが推測され興味深い。

⑭「元」…立神遺跡（鹿屋市）（第８図）

墨書土器は６点出土しているが大部分が「元」である可能性が高い。

以上，１遺跡内で特に多くみられる文字は 17 種見られ

る。多くは３点以上で西ノ平遺跡の「作」のように37点を数えるものもある。これら文字の共通点としては文字の意味を推測できるものが少ないことである。「阿多」や「仲家」は地名や人名・家名として推定できるが，その他は判然としない。また，17種の文字の中で２遺跡に渡って確認されるのはわずか３点であり，大多数が１遺跡に限定されることが指摘できよう。

（２）遺跡間で共通する文字

次に遺跡間で共通する文字についてみていく。

①「厨」「厩」「府」（第９図）

「厨」は饗饌の場を掌る施設である。「厩」は馬の管理を行う施設である。薩摩国府の「国厨（府）」（６），市来町安茶ヶ原遺跡の「日置厨」（３），市ノ原遺跡の「厨」（１・２）など５遺跡にみられる。「厨」は全国的に出土する代表格として指摘できる。永山は鹿児島県下出土の「厨」字から郡衙の施設との関わりと律令のシステムの浸透を指摘している（永山 2000）。なお，この３つの文字は判別が困難な場合があるが，ここではいずれも公的施設に関わる文字として取り上げた。

②「大（太）舎」（第10図）

西ノ平遺跡で「太舎」（１），高篠遺跡で「舎」（２・３），溝辺町曲迫遺跡で「大舎」が認められる。

③「万」「八万」「万万」（第11図）

「万」の文字もまた，全国的に出土例がある。鹿児島県内では鳥居ヶ段遺跡（１），伊集院町下永迫Ａ遺跡や市ノ原遺跡第１地点（２～７）など４遺跡で見られ，「八万」や「十万」など他の文字との組合せも多い。「万」について玉口時雄は数を表す文字と指摘している（玉口 1987）が，金峰町松木薗遺跡出土の「具万」や市ノ原遺跡第１地点「万万」からは数を表現しているとは断言できない。例えば「八万」は良好な状態を表現する吉祥句と指摘されている（永山 2004）。

④「大吉」「吉」（第12図・第18図）

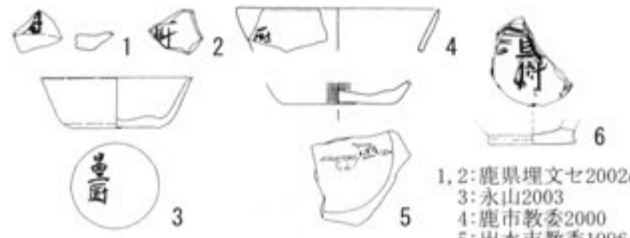
谷山弓場城跡で蔵骨器とともに「大吉」と墨書された土師器坏が３点出土している。「吉」は姶良町小倉畑遺跡（１），伊集院町西原遺跡（２），溝辺町山神遺跡（３）で出土している。

⑤「大伴」（第13図）

小瀬戸遺跡で１点（１），郡山町湯屋原遺跡から１点（２）みられる。「大伴」は薩摩国正税帳に記される郡司の姓名にも見られるものである。

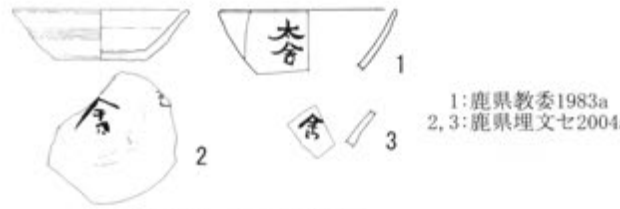
⑥「大」「中」「仲」（第14図）

大は薩摩国府跡，高篠遺跡（１～６）にみられ，牧遺跡では蔵骨器に伴う土師器坏から４点出土している。「中」は姶良町平松原遺跡（７・８），薩摩国分寺跡（９），薩摩町通山遺跡（10），指宿市中島ノ下遺跡（12）に，人偏のつく「仲」は小中原遺跡（11），踊場遺跡（13）にみられる。小瀬戸遺跡で「仲家」の文字がある。



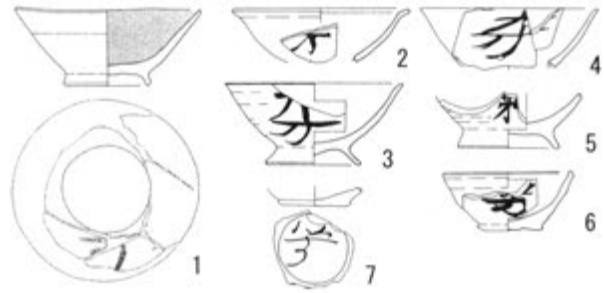
1，2：鹿県埋文セ2002d
3：永山2003
4：鹿市教委2000
5：出水市教委1996
6：鹿県教委1975

第９図　「厨」「府」「厩」



1：鹿県教委1983a
2，3：鹿県埋文セ2004a

第10図　「舎」「太舎」

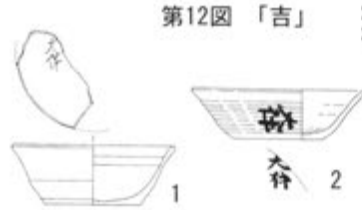


（1：輝北町教委1998　2～7：鹿県埋文セ2002d）

第11図　「万」「万万」「八万」

1：鹿県埋文セ2002a
2：鹿県埋文セ2003c
3：鹿県教委1977b

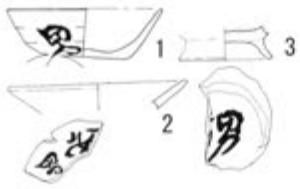
第12図　「吉」



第13図　「大伴」（1：鹿県教委1982b　2：郡山町教委2003）

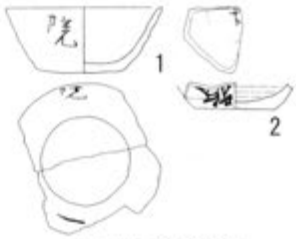
1～6：鹿県埋文セ2004a
7，8：鹿県教委1991b
9：川内市教委1985
10：薩摩町教委2001
11：鹿県教委1991a

第14図　「大」「中」



1:鹿県埋文セ2002a
2,3:鹿県埋文セ2004a

第15図　「男」「安」(S=1/6)



1:川内市教委1985
2:鹿県埋文セ2004a

第16図　「院」「牧」(S=1/6)

⑦「安」「男」（第15図）

「男」は小倉畑遺跡の「男」（1）と，高篠遺跡の「安男」（2），「男□」（3）があり，「安」は小中原遺跡と高篠遺跡にみられる。

このように遺跡間で共通する文字には意味の推測されるものが比較的多く，官衙や人(家)に関するもの，吉祥句が指摘される。特に官衙と関わる文字は先学によって指摘された公的施設と墨書土器との関わりが指摘される。

4　文字の分類と検討

前節では遺跡内で多い文字に意味の判然としない文字，遺跡間で共通する文字に意味が推測されるものが多いことを指摘した。では，文字の意味が推測される墨書総体の中で，遺跡間において共通する文字はどのように位置付けられるのであろうか。この節では視点を変え，類例の少ない文字も含めて意味・意義の推測されるものを検討する。

文字意は①公的施設に関連する文字，②地名に関連する文字，③人(家)に関連する文字，④吉祥句に分類した。

① 公的施設に関連する文字…「厨」「厩」「府」「院」「牧」

公的施設に関わる文字は官衙内の建物や役職名を示していると思われる。「厨」「厩」「府」の3文字は前述の通りである。「院」（第16図1）は薩摩国分寺跡から出土しており，寺院を指した文字であると考えられる。「牧」（第16図2）は高篠遺跡でみられるが，高篠遺跡では交通の要所としての性格がうかがえ，官営の牧との関わりが推測される。

②地名に関連する文字…「阿多」「高木」

地名に関する文字は県内では少ない。「阿多」の出土した小中原遺跡は当時の阿多郡内に所在する。「高木」の墨書土器は薩摩国府跡から出土している。薩摩国府は高城郡に所在しており，高城駅の存在も知られている。「高木」の木は城の音を当てたものと考えられる。

③人(家)に関する文字…「久米」「肥道里」「大伴」「伴家」「仲家」「中家」

「久米」の文字は上加世田遺跡出土の墨書土器に記されていた。上加世田遺跡の近隣には久米姓の旧家が存在する。「肥道里」の墨書土器は横井竹ノ山遺跡出土の文字であり，官道との関わりが推測される。「大伴」は上述のとおりであり，「伴家」以下はすべて小瀬戸遺跡出土である。

④吉祥句…「大吉」「吉」「祥」

「大吉」「吉」は前述した。「祥」の墨書土器は薩摩国分寺跡から出土している。

以上，文字意からは公的施設や吉祥句に関わる墨書土器は比較的複数の遺跡で見られるものが多いのに対し，地名に関わるものは1遺跡にみられる。一方，人(家)に関わるものは1遺跡にみられるものと遺跡間で共通するものの二者が認められる。

これまでの検討をまとめると，鹿児島県内の墨書土器は祭祀的なものと食器管理的なものに大きく分けられる祭祀的なものはさらに遺跡間で共通する文字と，1遺跡内で多いものに二分され，前者に「万」「大吉」，後者に地名や文字の意味の判然としないものが多い。一方，食器管理的なものは遺跡間で共通する文字が多く，「厨」「厩」「府」「院」「牧」などが指摘できる。「大伴」や「久米」は1遺跡内でみられる場合と遺跡間で共通する場合があり，墨書の目的も食器管理と祭祀の両者が想定される。

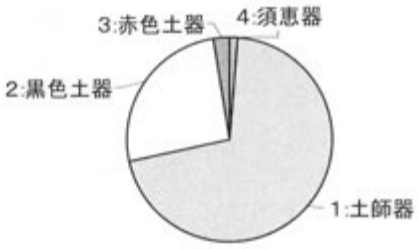
次節ではこの祭祀と食器管理の二者について県内の事例から，さらに具体的に掘り下げて考察していく。

5　祭祀的な性格の考察1－墨書土器に使用される土器について－

墨書土器に祭祀的な性格を想定した場合，墨書する土器に意図的な選択があった可能性がある。この節では墨書土器に使用される土器の傾向を指摘する。

古代の遺跡から圧倒的に多く出土する土師器は古代の生活における最も一般的な日常雑器である。その土師器が墨書土器の中でも圧倒的な量を誇る。墨書土器の中で土師器に次いで多いのが黒色土器である。黒色土器は器面を燻し磨くことで炭素を吸着させ，水を弾く効果を持ち実用的である。黒色土器もまた，日常生活において使用される土器の1つである。

多くの遺跡では，墨書土器の中での土師器と黒色土器との割合はその遺跡内での各土器の割合をそのまま反映しているようである。例えば，高篠遺跡では土師器と黒色土器の割合が約9：1であり，墨書土器もほぼ同じ構成比を示す（第2表）。このことから土器の種類を選択した墨書はみられない。ただ，輝北町鳥居ヶ段遺跡では墨書土器28個中18個が黒色土器，10個が土師器で構成されており，鳥居ヶ段遺跡内の全ての土師器，黒色土器の割合では，土師器が黒色土器の量を上回っている。この例は，鹿児島県内でも非常に稀な出土例ではあり注目しておきたい。



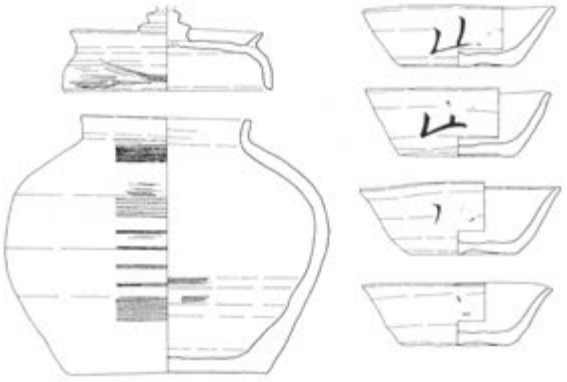
第１表　墨書土器に使用される器の割合

	すべての土器	墨書土器
土師器	1356(88%)	75(74%)
黒色土器	180(12%)	26(26%)
合計	1536	101

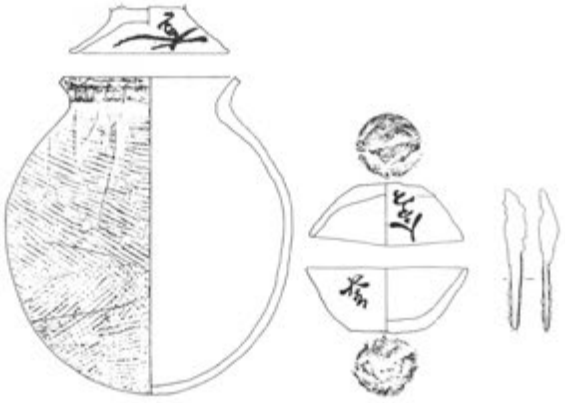
第２表　高篠遺跡における土器と墨書土器の割合

6　祭祀的な性格の考察２－蔵骨器に記された墨書について－

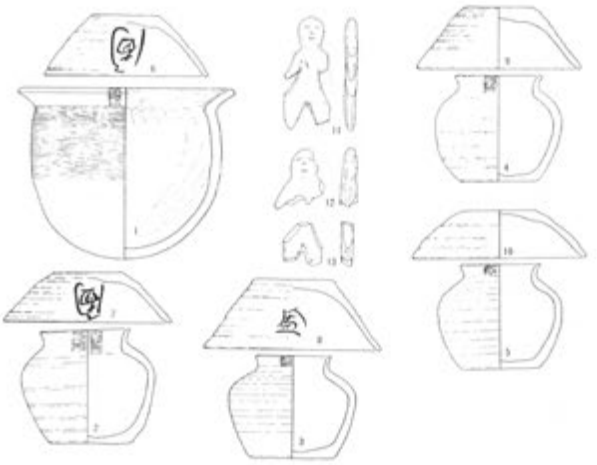
鹿児島県内で墨書土器が蔵骨器として利用されている例として，鹿児島市谷山弓場城跡出土の「大吉」の墨書土器は蔵骨器の蓋と副葬品として使用されていた。また，金峰町白樫野火葬墓の墓壙内の四隅からは「山」と墨書された土師器が４点出土している。さらに吉田町牧遺跡では須恵器蔵骨器のまわりに 13 点の土師器坏が合口に



第17図　白樫野古代火葬墓蔵骨器（宮下 2000）



第18図　谷山弓場城跡蔵骨器（鹿児島市教委 1992）



第19図　犬迫遺跡出土蔵骨器（新東 1978）

しておかれていたが，その中の１点に「秋」，７点に「大」の墨書土器が含まれている。菱刈町大迫遺跡では土師器坏４点中，３点に「盈」の墨書土器がみられた。「大吉」は人名あるいは吉祥句であると考えられている。「山」の文字は墓を意味する場合もあるが，「山」の１文字からはその意味するところを推定するに至らない。「大」「盈」も同様である。

このように蔵骨器とともに出土している墨書土器は「大吉」のような吉祥句や他の遺跡ではみられない「盈」の文字が認められ，蔵骨器に伴う墨書土器の多くが１つの墓の中で同じ文字を用いていることが指摘でき，供献土器として偶然に墨書土器が使用されたのではなく，墓に関わる意図的な墨書と推測したい。

7　食器管理的な性格の考察

食器管理的な性格をもつ墨書が官衙等の公的施設と深く関わる可能性について墨書土器のみでなくその他の遺構，遺物について把握し，墨書土器と併せて検討を加えていく必要がある。

（1）掘立柱建物

掘立柱建物は住居や倉庫として利用される建物である。掘立柱建物跡は１つの遺跡内からさまざまな大きさ，数が検出される場合が多い。県内でも特に 10 棟を超える掘立柱建物が検出されている遺跡は，高篠遺跡，山野原遺跡，市ノ原遺跡第１地点，西ノ平遺跡，成岡遺跡，小中原遺跡が挙げられる。鹿児島県の墨書土器出土遺跡で検出された掘立柱建物遺構について１遺跡における検出数を概観すると，墨書土器が多く出土した遺跡と掘立柱建物の検出数が多い遺跡は重なるという特徴がみられるこの中でも西ノ平遺跡や市ノ原遺跡の掘立柱建物には庇の付くものもみられ，ともに 100 点を超える墨書土器が出土している。

(2)焼塩土器

焼塩土器は，固形塩の運搬に使用されていた土器を指す。焼塩土器は官衙や官道沿いの遺跡に出土する傾向が非常に強い遺物とされている。塩は古代の社会において貴重な調味料であり，同時に祭祀行為とも深い関わりをもつものである。塩は主に生産地から官衙や寺院，官道沿いの地に供給されていたと考えられている。鹿児島県内の墨書土器出土遺跡の中で焼塩土器を出土している遺跡は多くない。高篠遺跡では2000片以上の焼塩土器片が出土しており，また遺跡の周辺に駅路が想定され，注目される。

(3)青磁・白磁・緑釉陶器

青磁，白磁は中国産の輸入品であり，中央から各地の公施設に下賜されるものである。このことから，青磁，白磁が出土する遺跡では高い身分にある人物の存在が想定される。一方，国内で生産される緑釉陶器の出土は県内においては少ないが，緑釉陶器も贅沢品としての性格が極めて強い器であり，公的施設や国司や郡司，豪族などの住居が想定される。青磁・白磁・緑釉陶器の出土遺跡は尾長谷迫遺跡，上加世田遺跡，市ノ原遺跡第1地点，計志加里遺跡，成岡遺跡，西ノ平遺跡，坂ノ下遺跡，小瀬戸遺跡，竹牟礼遺跡，山神遺跡，山崎B遺跡などでみられる。

(4)その他の遺物

まず，公施設的性格が想定できる遺物として帯金具がある。帯金具は西ノ平遺跡，橋牟礼川遺跡，小中原遺跡，高篠遺跡，鹿屋市宮ノ脇遺跡などから出土している。同様に，当時の役人が木簡などを削る際に使用したと考えられる刀子の出土は高篠遺跡で多く認められる。

以上を総合すると，大方の条件を満たすものは西ノ平遺跡と市ノ原遺跡第1地点であることが分かった。また薩摩国府や国分寺は，遺跡の性格上，公的施設であることは間違いない。公的施設を表現する文字が出土した9遺跡の中にこの4遺跡が含まれていることは遺構，遺物の状況からも公施設的な性格が指摘されるものである。

なお，高篠遺跡や西ノ平遺跡，市ノ原遺跡第1地点では公施設的な文字と同時に祭祀的な文字も認められる。このように公施設的性格を有していても祭祀的な性格の文字はうかがえ，公施設的な遺跡の墨書土器は必ずしも食器管理的な文字のみではないことも指摘される。

最後に，公的施設の性格を示す遺構・遺物はみられないが，墨書土器や立地から公的施設が想定される遺跡と，公施設的な遺構・遺物はみられるが，墨書土器には公施設的な性格がうかがえない遺跡について指摘しておく。

出水市尾崎B遺跡は公施設的な遺構・遺物の検出がないが，「厩」もしくは「厨」と記された墨書土器が出土し，大宰府から続く西海道付近に位置している。文献上から知ることができる駅で出水市付近にあったと考えられている「市来」は，現在地名として出水市武本市来に残り，尾崎B遺跡から南へ約3km離れた地域であることから，地名と遺跡の位置が多少離れているものの，尾崎B遺跡は駅関連の遺跡が推察される。また，「厨」墨書土器が出土している一ノ宮遺跡では，所在地名が「郡元」「一ノ宮」であることから公的施設の性格がうかがえる。一方，山野原遺跡は建物の規模，鉄製小刀の出土から見ると公施設的な遺跡と考えられるが，公的施設を意識させるような墨書土器の出土はなく，墨書土器には「良」「三卜」「井多」など吉祥句的文字が記され，「良」の墨書土器は地鎮的要素がみられ祭祀的性格がつよく認められる。

8　まとめ

今回行なった検討からは墨書土器を出土する遺跡の間にさまざまな相違点を見出すことができた。墨書土器出土遺跡は県内に多く存在するが，その性格別に分類すると①公施設的な性格を持つ遺跡，②公施設的な性格を持たない遺跡，③墓の3グループに分けられる。その中で墨書土器の性格としておおよそ①は食器管理的な性格と祭祀的な性格，②と③は祭祀的な性格が想定される。

鹿児島県内で公施設的性格を示す文字として「厨」「厩」「府」「院」「(大)舎」等の施設名や「大伴」「仲家」「中家」などの人名・家名を挙げたが，これらの文字は遺跡間で共通して認められることの多いことを指摘した。

一方，鹿児島県内の墨書土器出土遺跡の大多数を占める公施設的な性格のみられない遺跡では墨書土器の出土数も少ない。これらの遺跡の墨書土器は公的施設と考えられる遺跡の墨書土器に比べて，記される文字の種類が少なく，文字意の推測されるものは少なかった。また，文字そのものも鹿児島県内の2遺跡以上で用いられることが少なく，その遺跡内でのみ意味をもつものであると評価した。平川氏の指摘した集団の標識的な文字が想定され，背景に高島氏の指摘するような村落祭祀を推測することも可能である。

最後に蔵骨器とともに出土している墨書土器は，吉祥句や他の遺跡ではみられない文字が認められ，埋葬に関わる意図的な墨書が推測される。このように墨書土器の用途に祭祀の場面が想定されることは多いが，祭祀の行われる場所や時期，状況，祭祀を執り行う人々によって祭祀の形態はさまざまに変化し，その変化は墨書土器にも大きく反映するものである。したがって，祭祀の具体的な内容と墨書土器の在りかたを考えていくことは今後の重要な課題である。

第３表　鹿児島県内の墨書土器出土遺跡地名表

遺跡名	所在地	点数	文字	特殊遺物・遺構	出典
一之宮	鹿児島市郡元町	1	厨		48
鹿大構内	鹿児島市郡元町	2	□力		51
共研公園	鹿児島市中央町				50
苦辛城跡	鹿児島市山田町	1	本?		29
武ABC	鹿児島市武1丁目	3	本か八十, 八□, 八田		46
武E	鹿児島市武1丁目		八万		
谷山弓場城跡	鹿児島市下福元町	3	大吉3		47
山ノ中	鹿児島市西別府町				
横井竹ノ山	鹿児島市犬迫町	3	肥道里と八万(刻), ☆□と子(1), 子		82
牧	吉田町宮之浦	6	大4, 秋		
尾長谷迫	指宿市西方	1	不明1	越州窯系青磁	11
敷領	指宿市十町	2	智, □.		14
新善所後	指宿市十二町	2	不明		23
中島ノ下	指宿市東方	(1)	中(刻)	水田跡	12
橋牟礼川	指宿市十二町	4	真3, 厨か府1	帯金具, 掘立柱建物	13
横瀬	指宿市西方	3	床, 不明2		10
神方	山川町成川	1	占1		
上加世田	加世田市川畑	3	久米, 吉か早, 不明	焼塩壷, 刀子, 白磁, 越州窯系青磁, 掘立柱建物, カマド跡	51
鞍城	串木野市上名				
安茶ヶ原	市来町				81
市ノ原第1地点	市来町大里	200	万(44), 万万(24), 八万, 厨, 春(4), 九(2), 得員, 種, 巻	越州窯系青磁, 緑釉陶器, 掘立柱建物	42
上ノ原	市来町鳥内				
針原	市来町川上	2	了, 不明		
ムシナ	市来町大里	6 (1)	十万, 人加, 不明4, ＋1(刻)		7
市ノ原第3地点	東市来町伊作田				
犬ヶ原	東市来町		不明	刀, 掘立柱建物	
古城	東市来町	6	講2, 一万, 　, 不明2		
向鞍城	東市来町伊作田	2			
下永迫A	伊集院町	31	十4, 万3, 在		
柳原	伊集院町	2	三幅か三依, 不明		
西原	伊集院町郡	4	原, 吉, 不明2		45
瀬屋原	郡山町東俣	1	大伴		60
小薗	金峰町浦之名		天(則天文字), 鳥麻呂(刻)		58
小中原	金峰町宮崎	2 (18)	安, 不明, 阿多(刻), □多(刻), 仲(刻), 力3(刻), 井2(刻), 小か川(刻), 川6(刻), 十と小(1)(刻), 不明2(刻)	焼塩壷, 帯金具, 刀子, 白磁, 掘立柱建物,	31
山野原	金峰町尾下	6 (9)	井2, 井?, 井多, 良, 不明(刻), 井3(刻), 井多2(刻), 多(刻), ＋1(刻), ＋一(刻), 三ト(刻)	焼塩壷, 刀子, 掘立柱建物, 土坑墓	57
芝原	金峰町宮崎				
白樫野	金峰町白川	4	山4	火葬墓	86
筆付	金峰町尾下	5	大, 成?, 日万, 万, 不明		
松木園	金峰町尾下	1	不明		85
万之瀬川河床	金峰町・加世田市	1 (1)	不明		
持躰松	金峰町尾下				
渡畑	金峰町宮崎				
大島	川内市東大路町				
京田	川内市中郷町				
計志加里	川内市中郷町	4 (2)	与, 吾, 物, 不明, 人?(刻), 不明(刻)	布目瓦, 越州窯系青磁, 刀子, 掘立柱建物, 竪穴住居状遺構, 円形周溝墓, 土坑墓	41
薩摩国府	川内市国分寺町	3 (1)	高木, 国計, 畿面, 不明(刻)	越州窯系青磁, 白磁, 緑釉陶器	30 88
薩摩国分寺	川内市国分寺町	18 (7)	展?, 金?, 講か諫, 万?, 中, 院一, 祥, 不明7, 不明5(刻), 大(刻), 兆長(刻),	礎石建物, 越州窯系青磁, 白磁, 緑釉陶器	30 88
下永崎	川内市永利				
成岡	川内市中福良町	19	上2, 用, 不明13, 　3	越州窯系青磁, 白磁, 緑釉陶器, 掘立柱建物, 住居跡	28
西ノ平	川内市中福良町	107・16	作33, 作?, 作器, 日2, 日?4, 上?, 一心, 子, 高, 高分, 太舎, 不明24, 作(刻)4, 不明6	帯金具, 刀子, 越州窯系青磁, 白磁, 緑釉陶器, 掘立柱建物	28
麦ノ浦貝塚	川内市隈成町	(1)	不明(刻)		73
五社	東郷町斧渕	1	不明1(刻)		77
坂ノ下	東郷町南瀬	7 (1)	不明7, 不明(刻)	越州窯系青磁, 緑釉陶器	78
一ッ木A	宮之城町虎居	1	不明		93
通山	薩摩町求名	1	中		63
大坪	出水市美原町	(3)	万木月2, 不明		
尾崎B	出水市文化町	5	□, 厨か殿, 上か力, 生, 不明	焼塩壷, 炭化土師器塊	6
下格迫	高尾野町				
大迫	菱刈町徳辺	3	殿3	人形土製品	64
山下	菱刈町徳辺	9	不明9		86
城山山頂	国分市上小川	1	不明1		61
大隅国分寺	国分市中央3丁目	1	文文	布目瓦,	62
高井田	加治木町木田	1	之	掘立柱建物	40
小倉畑	姶良町西餅田	20	寺?, 田人か男, 田人1, 吉, 永, 坏坏坏坏…刀自…1, □□有□□□, 物か十, 万?, 大?, 足?, 四か少, 不明8	香炉の蓋	39
小瀬戸	姶良町西餅田	18 (17)	仲家, 原3, 雄5, 利, 不明8, 仲家2(刻), 大伴1(刻), 伴か仲(刻), 伴家(刻), 測?(刻), 家(刻)	越州窯系青磁, 白磁, 緑釉陶器, 刀子, 土馬, 布目瓦, 掘立柱建物, 井戸	27
中原	姶良町脇元	1	不明		44
萩原	姶良町平松	9	芳か坊1, 不明8	刀子	1
平松原	姶良町平松	1	中		32
竹牟礼	蒲生町漆	2・(2)	糸?, 十, 長(刻), 不明(刻)	越州窯系青磁, 掘立柱建物	37
蒲坂・禁中	蒲生町下久徳	2	丁?, 不明	掘立柱建物	54
桑ノ丸	溝辺町崎森	1	不明		24
東免	隼人町西光寺	13	大	掘立柱建物, 土坑	102
曲迫	溝辺町麓	4	大舎, 原?	土坑	102
山神	溝辺町麓	5 (1)	吉, 山, てん, 廣, 不明, 井(刻)	青磁, 白磁, 掘立柱建物	24
星塚	横川町下ノ星塚	2	不明2		38
山崎B	栗野町木場	4 (13)	九, 不明3, 九9, ノ(刻)一(刻), ＋?, ×	青磁, 白磁, 掘立柱建物	26
中園	牧園町万膳	2	○, 不明		85
小田松木園	隼人町小田	2	長か儀	小刀	
立神	隼人町住例川				
永礎	福山町住例川	1	不明		
中尾立	福山町福沢	26	余3, 不明14	焼塩壷, 掘立柱建物	83
尾ノ迫	大隅町中之内			掘立柱建物	20
鳴神	大隅町岩川	3	吉山, 不明2		18
西原段Ⅱ	大隅町中之内	15	伴, 酒, 不明13	焼塩壷, 掘立柱建物, 畑跡	19
東原	大隅町中之内	1	長		
吹切段	大隅町中之内	1	不明1	掘立柱建物	20
鳥居ヶ段	輝北町平房	28	三代, 万, 不明26	焼塩壷, 住居跡	13
新田	輝北町下百引				
前床	輝北町平房	1	不明		53
吉元	輝北町下百引				
踊場	財部町南俣	17 (1)	伴9, 仲2, 行司1, 不明5	掘立柱建物, 焼土, 軽石集積, 焼塩壷, 刀子	101
九養岡	財部町	1	田		101
高篠	財部町	105 (1)	牧, 舎□, 舎, 會2, 大6, 丈, 為2, 男□, 安男, 安, 等3?, 角, 奈?, 不明81	帯金具, 刀子, 掘立柱建物, 焼土, 軽石集積	101
長十塚	財部町南俣	1	不明		70
井出ノ上	末吉町	4	鮑か鮎, 圭か立, 不明2	焼塩壷, 刀子,	65
上中段	末吉町深川	1	不明	焼塩壷,	
外牧	志布志町帖	2	不明2		
飯盛ヶ岡	鹿屋市上野町	1	不明		34
榎崎A	鹿屋市郷之原町	4	不明4	焼塩壷, 掘立柱建物, 周溝墓	32
榎崎B	鹿屋市郷之原町	17	七笠, 十笠, 笠4, ○, 石?, 不明8, 不明(刻)		35
立神	鹿屋市高須町	6	完6		50
中野西	鹿屋市花岡町	1	七		
西丸尾	鹿屋市白水町	1	不明		33
炉ノ木	内之浦町北方	1	不明		
塚崎	高山町	1	不明		
西大園	高山町				
家宮下	吾平町上名	1	不明		3
荷掛原	吾平町上名	3	不明		2
道脇	吾平町麓				
鳥ノ巣	大根占町城元	1	乙		21
前田	根占町横別府				

本稿は九養岡遺跡・踊場遺跡・高篠遺跡の報告書作成（平成15年度）に際して行なった墨書土器の集成・検討に端を発し，その集成をもとに坂本佳代子の大学卒業論文（平成13年度）に加筆し，集成の追加を行ったものである。

資料集成に携わった者は以下の通りである。

有馬孝一　岩澤和徳　国師洋之　福永修一　松田朝由　真鍋雄一郎　山崎克之

また，本稿をなすに当たり以下の方々に指導・助言を頂いた。

池畑耕一　石丸良輔　黒川忠広　桑波田武志　新東晃一　中村和美　永山修一　繁昌正幸（50音順，敬称略）

中村和美氏からは埋文友の会講座資料（「器にのこされた文字世界」1997）の資料を提供頂いた。

【引用参考文献】

1 姶良町教育委員会 1978 『萩原遺跡』 姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
2 吾平町教育委員会 1990 『荷掛原遺跡』 吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)
3 2000 『軍宮下遺跡』 吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(11)
4 池畑耕一 1983 「出土遺物からみた古代の薩摩・大隅」『大宰府古文化論叢』上巻 吉川弘文館
5 1990 「南端の文字文化」 『九州歴史大学講座』6巻7号 海援社
6 出水市教育委員会 1996 『尾崎A・B遺跡』 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(6)
7 市来町教育委員会 2000 『ムシナ遺跡』 市来町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)
8 指宿市教育委員会 1980 『橋牟礼川遺跡』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
9 1981 『宮之前遺跡』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)
10 1982 『横瀬遺跡』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(6)
11 1986 『尾長谷迫遺跡』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)
12 1990 『中島ノ下遺跡』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(8)
13 1994 『橋牟礼川遺跡Ⅵ』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(16)
14 1997 『敷領遺跡』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 (25)
15 頴娃町教育委員会 1990 『城ヶ崎遺跡』 頴娃町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)
16 江平 望 1985 「第二編 第二章 第三節 古代末期」 『指宿市誌』 指宿市
17 大川 清 1970 「墨書土器」 『新版 考古学講座』 第7巻 有史文化・下 雄山閣
18 大隅町教育委員会 1996 『鳴神遺跡』 大隅町埋蔵文化財発掘調査概報 (4)
19 1997 『西原段Ⅱ遺跡』 大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書 (12)
20 1998 『西原段Ⅰ遺跡・西原段Ⅱ遺跡・峯段遺跡・東原遺跡』 大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書(16)
21 2000 『尾ノ迫遺跡 吹切段遺跡』 大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書(21)
22 大根占町教育委員会 1992 『鳥ノ巣遺跡』 大根占町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)
22 鹿児島県教育委員会 1975 『薩摩国府・国分寺』
23 1977a 『新番所後遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
1977b 『山神遺跡・桑ノ丸遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(7)
25 1981 『山崎A・C遺跡 木場C遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(17)
26 1982a 『山崎B遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (18)
27 1982b 『小瀬戸遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(19)
28 1983a 『成岡遺跡・西ノ平遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(23)
29 1983b 『苦辛城跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(27)
30 1985 『薩摩国府・国分寺跡』
31 1991a 『小中原遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(57)
32 1991b 『平松原遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(58)
33 1992a 『榎崎A遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(63)
34 1992b 『西丸尾遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(64)
35 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993a 『飯盛ヶ岡遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(3)
36 1993b 『榎崎B遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)
37 1993c 『竹牟礼遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(5)
38 1993d 『星塚遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(7)
39 2002a 『小倉畑遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(34)
40 2002b 『高井田遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(35)
41 2002c 『計志加里遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(38)
42 2002d 『市ノ原遺跡 (第1地点)』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(49)
43 2003a 『犬ヶ原遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(50)
44 2003b 『中原遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(54)
45 2003c 『西原遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(58)
46 2003d 『武A・B・C遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (59)
47 鹿児島市教育委員会 1992 『谷山弓場城跡』上巻 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(1)
48 2000 『一ノ宮遺跡B地点』 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(26)
49 2002 『原田久保遺跡』 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(35)
50 2003 『鹿児島市埋蔵文化財確認発掘調査報告－共研公園遺跡・琉球館跡－』 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(39)
51 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』
52 加世田市教育委員会 1985 『上加世田遺跡』 加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
53 鹿屋市教育委員会 1988 『立神遺跡』 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (9)
54 蒲生町教育委員会 1994 『藤坂・禁中遺跡』 蒲生町埋蔵文化財発掘調査報告書 (2)
55 河野治雄 1985 「第二編 第二章 第一節 薩摩国成立以前の指宿」 『指宿市誌』 指宿市
56 輝北町教育委員会 1998 『前床遺跡 鳥居ヶ段遺跡』 輝北町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)
57 金峰町教育委員会 1995 『山野原遺跡』 金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書 (7)
58 2003 『小薗遺跡』 金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書 (11)
59 高山町 1997 『高山郷土誌』
60 郡山町教育委員会 2003 『湯屋原遺跡』 郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
61 国分市教育委員会 1985 『城山山頂遺跡』 国分市埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
62 2002 『大隅国分寺跡』 国分市埋蔵文化財発掘調査報告書 (7)
63 薩摩町教育委員会 『寺屋敷遺跡・通山遺跡・宮ノ前遺跡・犬木屋遺跡』 薩摩町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
64 佐藤浩司 2003 「西国における墨書土器の様相－北部九州を中心として－」『古代官衙・集落と墨書土器－墨書土器の機能と性格をめぐって』独立行政法人奈良文化財研究所
65 斎藤 忠 1987 「墨書土器研究の意義」 『季刊考古学』第18号 雄山閣

66 下山 覚 1993 「橋牟礼川遺跡の「被災」期日をめぐる編年的考察」 『古文化談叢 30下巻』 古文化研究会
67 柴田博子 1997 「宮崎県内出土の墨書土器と墨書土器研究」『宮崎考古』 第１５号 宮崎考古学会
68 1998 「日向国出土の墨書土器をめぐる諸問題」『宮崎産業経営大学紀要 第11巻 第1号』宮崎産業経営大学法学会・経営学会
69 新東晃一 1978 「南九州における人形・馬形土製品の祭祀形態」『古代文化』30－２ (財)古代學協會
70 末吉町教育委員会 1989 『井出ノ上遺跡』 末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書(８)
71 川内市教育委員会 1981 『薩摩国分寺跡 昭和５５年度発掘調査概報』
72 1985 『国指定史跡 薩摩国分寺跡』 環境整備事業報告書
73 川内市土地開発公社 1987 『麦ノ浦貝塚』
74 高島英之 2000 「墨書土器村落祭祀論序説」 『日本考古学 第９号』 日本考古学協会
75 財部町教育委員会 1987 『長十塚遺跡』 財部町埋蔵文化財発掘調査報告書(１)
76 玉口時雄 1987 「墨書土器」 『季刊 考古学 第１８号』 雄山閣
77 東郷町教育委員会 1986 『五社遺跡』 東郷町埋蔵文化財発掘調査報告書(１)
78 2002 『坂ノ下遺跡』 東郷町埋蔵文化財発掘調査報告書 (６)
79 中村明蔵 1993 『隼人と律令国家』 名著出版
80 永山修一 2000 「鹿児島市一ノ宮遺跡出土の「厨」墨書土器について」 『一ノ宮遺跡Ｂ地点』 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(26)
81 2003 「第５章 古代の伊集院町」 『伊集院町誌』 伊集院町
82 2004 「鹿児島市横井竹ノ山遺跡出土の墨書土器について」『隼人文化研究会１月例会資料』隼人文化研究会
83 野崎道雄 1976 「第四編 古代後期の川内」 『川内市史 上巻』 川内市
84 原口 泉ほか 1999 『鹿児島県の歴史』 山川出版社
85 隼人町立歴史民俗資料館 1992 『年報』第２号 平成３年度版
86 菱刈町教育委員会 1985 『山下遺跡』 菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書(３)
87 平川 南 1991 「墨書土器とその字形」 『国立歴史民俗博物館研究報告 第35集』 国立歴史民俗博物館
88 2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
89 福山町教育委員会 1994 『中尾立遺跡』 福山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (２)
90 藤井重寿 1976 「第三編 古代前期 国家成長期の川内」 『川内市史 上巻』 川内市
91 牧園町教育委員会 1991 『中園遺跡』 牧園町埋蔵文化財発掘調査報告書(２)
92 宮下貴浩 2000 「白樫野古代火葬墓と製鉄遺物」『鹿児島考古 第34号』 鹿児島県考古学会
93 宮之城町教育委員会 2001 『一ツ木 (Ａ・Ｂ) 遺跡』 宮之城町埋蔵文化財発掘調査報告書(９)
94 宮本長二郎 1995 「第１１章 歴史時代の住居」 『日本原始古代の住居建築』 中央公論美術出版
95 吉田 晶 1980 「日本古代村落史序説」 塙書房
96 本蔵久三 1985 「第二編 第二章 第二節 薩摩国成立以後の指宿」 『指宿市誌』 指宿市
97 1991 「「古代の阿多(薩摩国阿多阿多郷)と日置郡金峰町小中原遺跡」考」『鹿児島考古』第25号鹿児島県考古学会
98 森田 勉 1983 「焼塩壺考」 『大宰府古文化論叢 下巻』 吉川弘文館
99 山中敏史 2003 「郡衙による食器管理と供給」 『古代官衙・集落と墨書土器－墨書土器の機能と性格をめぐって』 独立行政法人奈良文化財研究所
100 芳 即正・五味克夫 監修 1998 「鹿児島県の地名」 『日本歴史地名大系』第４７巻 平凡社
101 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004a 『踊場遺跡ほか』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(71)
102 2004b 『東免遺跡ほか』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(64)